

いけ しま ふく まん じ い せき
池島・福万寺遺跡ってなあに？



2000年7月 15日

(財)大阪府文化財調査研究センター

池島・福万寺遺跡ってなにしてるの？

普段近くを通るときに発掘しているのは知っているけど、なぜ掘っているのか意外と知らないんじゃないでしょうか？

なにを作っているのでしょうか？

池島・福万寺遺跡を含むこの一帯は、恩智川の洪水にずっと悩まされ続けてきました。恩智川は、生駒山に降った雨水を集めて流れていますが、大雨が降ると水位が一気に上がり川があふれてしまうのです。そこで、洪水対策の一つとして「治水緑地」を作ることになりました。

「治水緑地」とは普段は公園として利用し、恩智川の水位があがったときに、ここに一時水をためて、下流の街で洪水がおきないようにする役目をはたす場所です。また、地震や火災の時の避難場所としても使われることもあります。

ところが、「治水緑地」予定地は、奈良時代から続く「条里型地割」と呼ばれる土地区画の跡が残るところとして古くから有名だったのです。その為、治水緑地を作る前に発掘調査をすることになったのです。



大雨が降った後の発掘現場



恩智川治水緑地（計画）

どんなものがみつかったの？

実際に調査を始めてみると、「条里型地割」の跡はもちろんのこと、もっと昔の弥生時代から水田が作られていたことがわかりました。また、度重なる洪水に対する昔のひとたちの知恵や工夫のあとも見られ、現代と同じく洪水に悩まされていたことがわかりました。

昔からの農業の移り変わりの様子がこれだけよく残っている遺跡は全国的にあまり多くありません。遺跡を広い範囲で丁寧に調査することによって、たくさんの成果があがっているのです。



とても、広い範囲を発掘調査しているのがわかるわねっ！！

全部で40畝あるんだって！甲子園球場が10個入る広さと同じくらいだけど、どれだけ広いかわからないよ・・・

南上空からみた池島・福万寺遺跡 1999 撮影

各時代の深さ

現代

昭和時代

明治・大正時代

江戸時代

あづちももやま じだい
安土桃山時代

むろまち じだい
室町時代

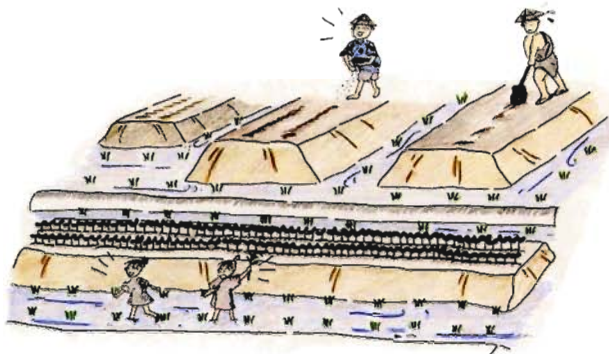
かまくら じだい
鎌倉時代
平安時代

あすか
飛鳥・奈良時代

こふん じだい
古墳時代

やよい じだい
弥生時代

じょうもん じだい
縄文時代



しまばた
島畠ブーム！

(今から 400 ～ 150 年くらい前)

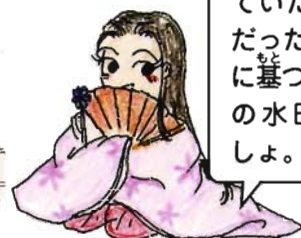
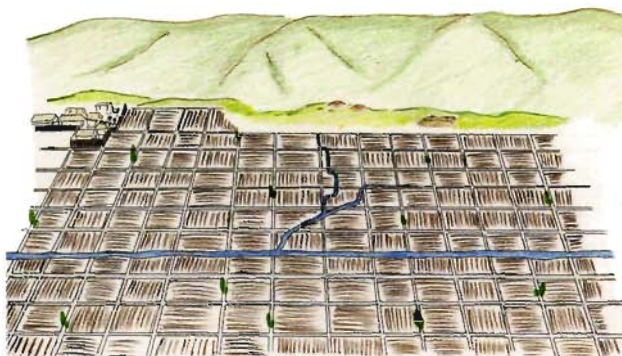


えど じだい
江戸時代には、水田の中の
たかまりで、綿を作ってた
んだよ！
「河内木綿」が作られたの
もこのころなんだ！

⇒ P.14,15

なら
きれいに並んでるでしょ！

(今から 1300 ～ 400 年くらい前)



へいしやうきやう へいあんきやう
平城京や平安京などが栄え
ていた頃も、ここは水田
だったのよ。「条里型地割」
に基づいたきれいな正方形
の水田が広がってるで
しょ。

⇒ P.12,13

え！？人が住んでたの？

(今から 1700 ～ 1400 年くらい前)

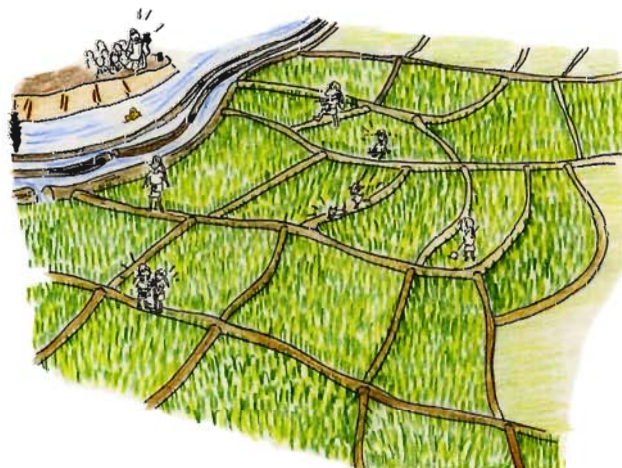


こふん
各地に古墳が作られていた
時代に、ここはムラがあっ
たんだ。古墳などからも見
つかる「玉」を作っていた人
たちの住むムラだったんだ
よ。

⇒ P.10,11

コメ作りはじまる！

(今から 2400 ～ 1700 年くらい前)



日本にコメ作りが入ってき
た頃には、ほんのわずかな
広さでしかできなかつたけ
れど、人々の工夫と努力の
おかげで広範囲でできるよ
うになってきたの。

⇒ P.4 ～ 9

それまで海が広がり入江になっていた河内平野は、縄文時代の終わり頃（今から 2800 年くらい前）には、淡水の湖『河内湖』となりました。当時の湖の周辺からは、食べた貝などを捨てた貝塚がいくつか見つかっています。一方、池島・福万寺遺跡周辺では湿地が広がっていたようで、当時の地面だったところでは、人間や動物の足跡（写真下）がたくさん見つかっています。石のやじりも見つかっているので、狩りもしていたのでしょう。

弥生時代になると、そんな湿地の中でも少し高くなったところでコメ作りが行われるようになりました。最近の調査では、地形の高低をうまく利用して作られた水田や、水路も見つかっています。



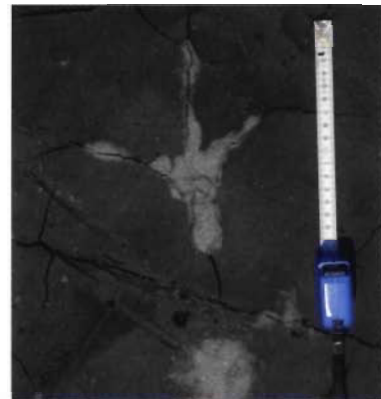
『ヒト』



誰の足跡かな・・・？



『シカとイノシシ』



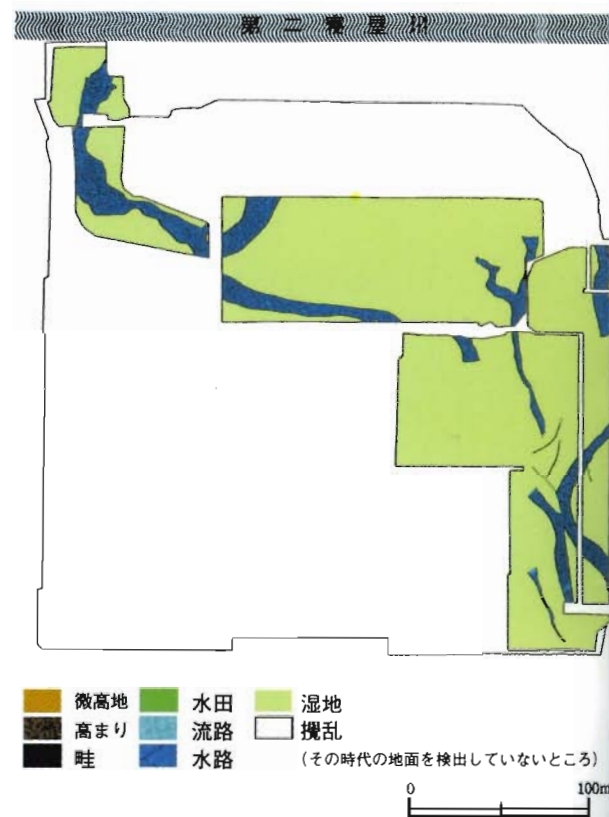
『トリ』

高まりから見つかった土器



つぶれた状態ででてきた甕

煮炊きに使われた土器です。写真では見えませんが底にわざと孔をあけています。これは、水田をつくる時の「おまつり」に使われたと考えられています。



洪水で埋もれたもの

左下の写真は、水田を^{たがや}耕すのに使われた木製のスコップです。当時の農具は、ほとんどが木で作られていました。

右下の写真は、食料や水などを^{たくわ}貯えておくための土器です。土の重みで割れてしまっていますが、ほぼ完全な形で見つかりました。中には、ナラ・カシなどのどんぐりの実などが入っていました。
^{あわ}慌てて逃げる時に、置き忘れていったのでしょうか？



埋もれていた木製鋤（スコップ）
もくせいすき

古代人の忘れ物・・・？

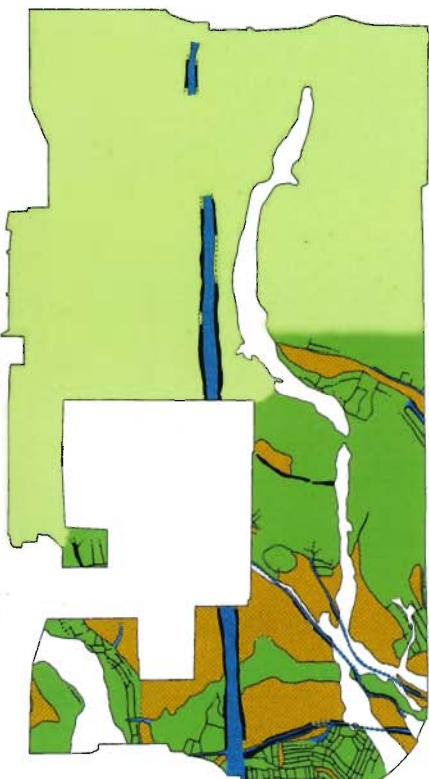


砂の中から出てきた壺
つぼ

はじめてのコメ作りの水田



右下の写真は、池島・福万寺遺跡で最も古い水田で、右側には^{ひだりはし}あぜが、左端には水路が見られます。この場所は、湿地の中でも少し高くなっており、コメ作りをはじめするのに最も条件の良い場所だったようです。

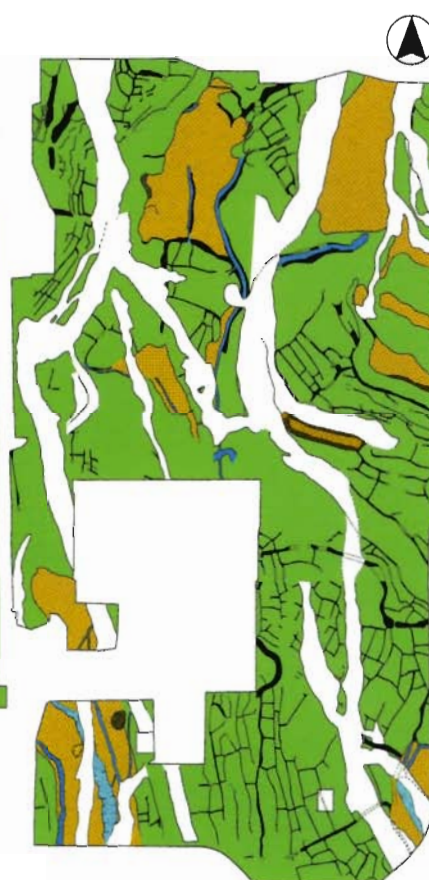
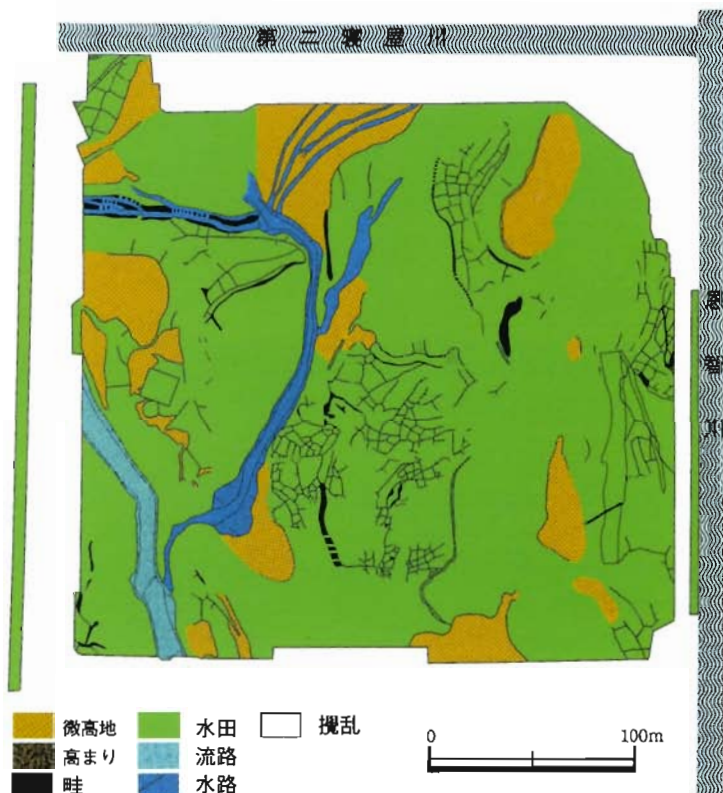


弥生時代前期の水田

水田システムの確立 水田開発の発展

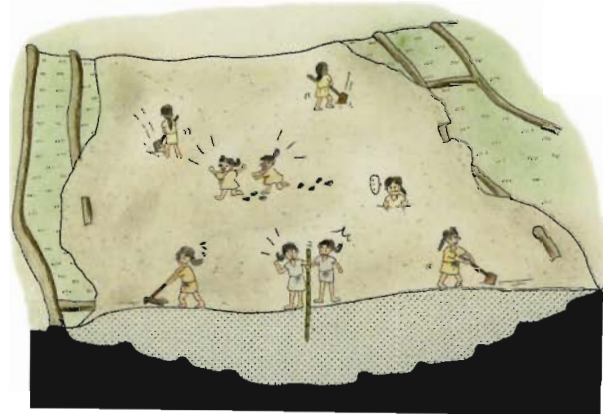


コメ作りが始まってから、人々は湿地を次々と開発していき、今から 2200 年くらい前には広い範囲が水田になりました。このころの水田は、洪水によってできた自然地形の高低を利用して、水が引きやすい場所を選んで作られました。水田には堰（ダム）を使って川から水を引いており、一つの堰から引いた水を使う水田のまとまりは、地形に合わせて作られていました。こうして広がった水田は、洪水で埋まっても、下の図（地形の逆転）のように人々の手によって作りなおされ、コメ作りが続けられました。



地形の逆転 弥生人の土地利用

弥生時代中期



1：地形の高低を利用して水田を作ります。両側の高いところから真ん中の低いところに、水を集めていきます。

2：大きな洪水が来て水田が埋まってしまいました。いちばん砂の多い真ん中の部分に、周りの砂を寄せ集めて盛り上げます。

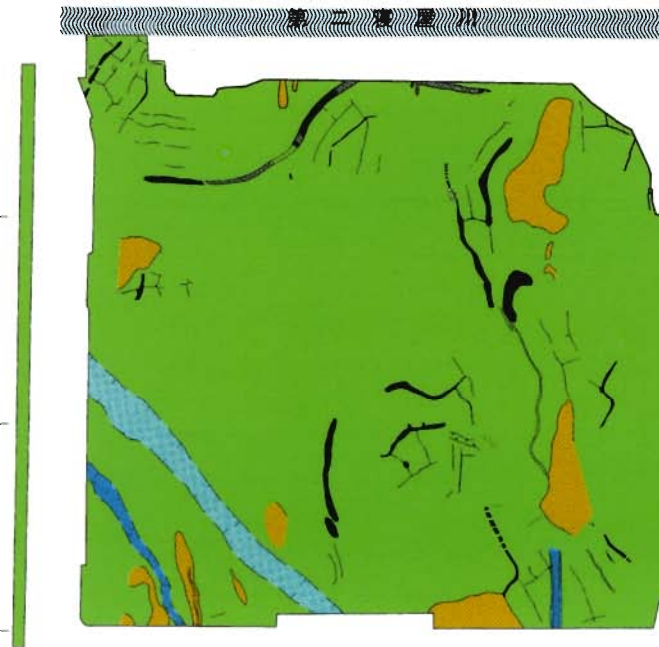


水路と堰・水口（水をひきいれるところ）

2000～2100年くらい前の水田は、その前と同じように自然地形を利用していますが、地形に少し手を加えて平らにしたり、長い水路を掘って広い範囲に水を送ることができるようにしていました。水田は、高まりなどで囲んだいくつかの単位にわけていますが、それらは同じ水を順番に利用していたようです。

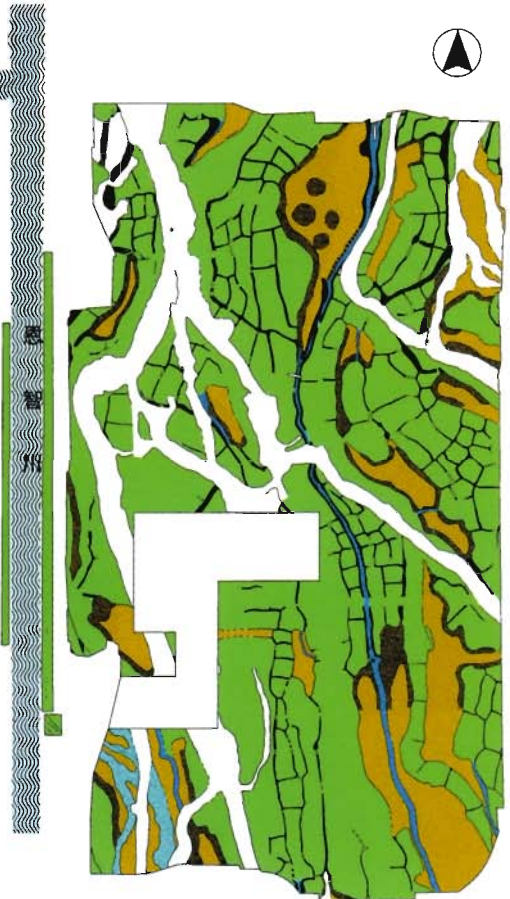
このころの水田の開発や管理は、広い面積を計画的に行っていたことがわかってきました。

おまじないに
使ったのかな？



微高地 水田 攪乱
高まり 流路
畦 水路

0 100m



の水田の移り変わりの様子



3：真ん中の高くなったところに水路を掘り、堰（ダム）を築いて水口（取り入れ口）から水を引き入れます。低いところと高いところが入れ替わり、水田の復旧作業が完了しました。



大畦の中に埋め込まれていた土器

弥生時代も後期になると、水田の仕組みはさらに発展していきます。堤防の中には、くりぬいた木を埋めて水を通した木製導水管や大規模な堰（ダム）などの新しい技術も現れました。

これらの技術は、流路などから水田に水を引くための施設として現代においても活用されているほどハイレベルなものでした。これらの最新技術を使うことにより、効率よく広い範囲に水をまわせるようになったのです。また、大畦などで囲まれた水田の単位がはっきりとわかるようになりました。水田の範囲が広がったことにより、コメの収穫量も増えたことでしょう。

こういった土器は、豊作を願っておまつりをしたときに使ったと考えられている土器なんだ！お祈りをするとたくさんおコメがとれたのかなあ～？



川の堤防から出た土器



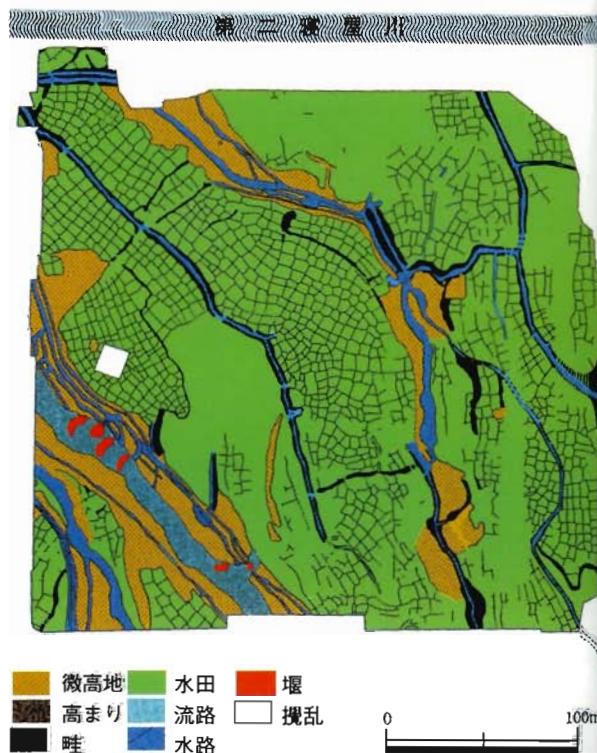
黒くみえているところがあぜなんだよっ！



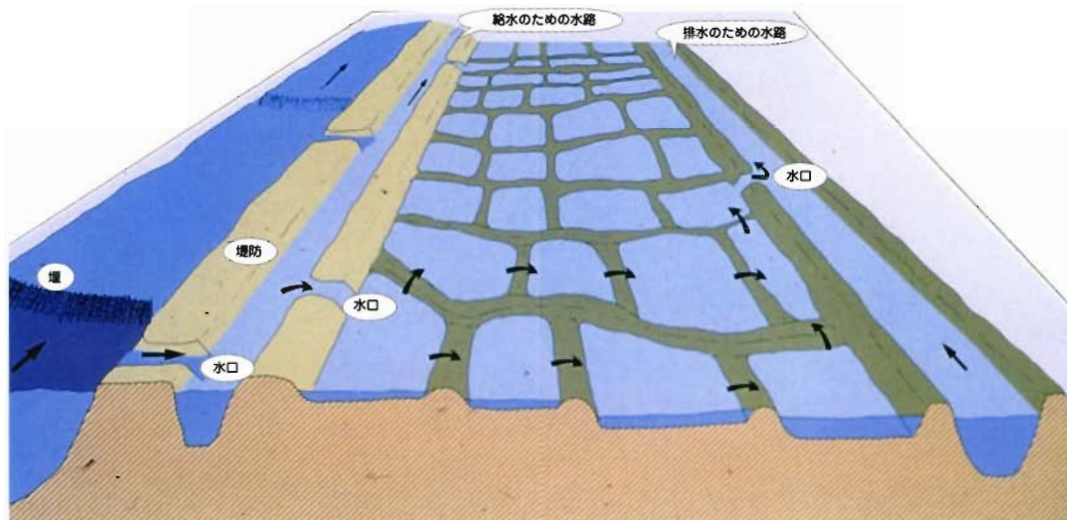
発掘調査であぜを見つけたところ



小さく分けられた水田



水田に水をまわす工夫（しくみ）



もくせいどうすいかん
木製導水管

水田を営むために必要な水は、川から引くことによって手に入っていました。川の水を水田に引くためには、まず、川の中に堰（ダム）を作って水位をあげ、水を水口（取り入れ口）から引き入れます。

その水は、水路を通過して水田の一番高いところへ送られ、水田をうるおした後、排水用の水路に流れるしくみになっていました。

水田の中を区画するあぜは、平らな面を囲んで水をためるものですが、水が水田全体に行き渡ることも考えて作られていました。

水田の中に水が回っていく様子は、現代も山間地でみられる棚田の水回しの方法とよく似ています。

堰にはいろんな遺物が
ひっかって出てくる
みたいだよ！



大きな堰（ダム）

ひえ～



こういう堰があちこち
あって、水田に水をまわ
してたんだね！

古墳時代は、日本列島にはじめて強大な力を持つ権力者が現れた時代です。人々が日本の歴史の中でお墓作りに最も力を入れていた時代で、堺市にある大仙古墳（仁徳天皇陵）などの巨大な古墳が作られました。

池島・福万寺遺跡では、弥生時代にみられた水田などの生産域としてだけでなく、人々の住んでいた村やおまつりを行っていた場所が発掘されています。生駒山の山麓に広がる古墳群をつくった人々の生活を見ることのできる遺構がたくさん見つかっています。



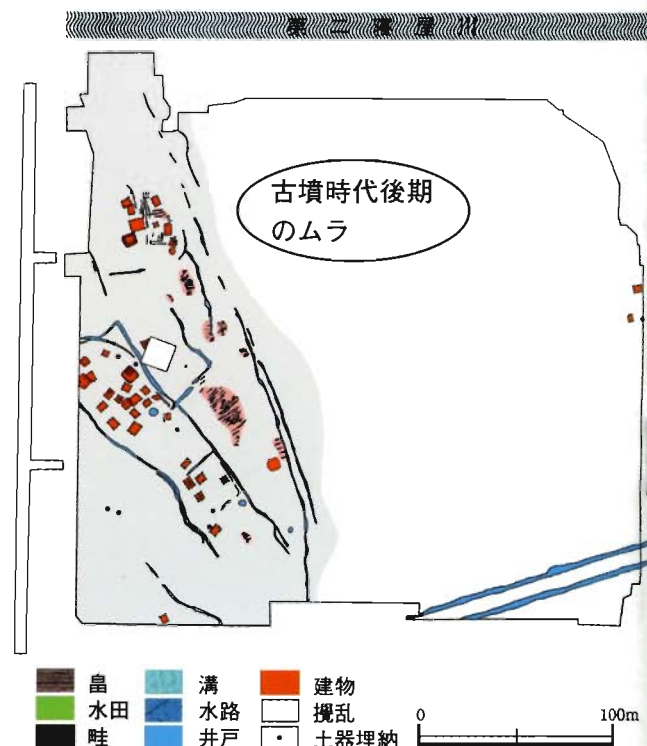
北からみた古墳時代後期のムラ（復元図）

古墳時代後期のムラの様子

調査区西端の福万寺地区で見つかったムラでは、当時の人々の生活をイメージできるような村の敷地を区画した溝や建物の跡、生活に使われた土器などがみつかっています。このムラでは、おまつりに使われた滑石（かっせき）という石で作られた玉などを作る（玉造）作業場などもみつかっています。



子持ち勾玉と玉製品





手前に「手あぶり形土器」がみえてるよ！



溝から出土した土器

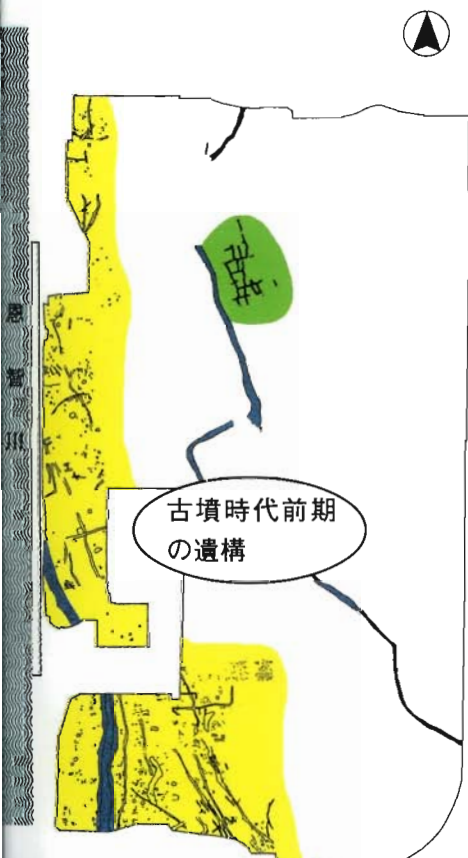
穴や溝がたくさん見つかった恩智川の東側では、古墳時代の初めごろ、おまつりに使われたと考えられる遺物もたくさん見つかっています。ちょうどその範囲は周辺より少し高い場所で、その地形に沿ってたくさんの遺構が作られました。遺構の中や地面からは、土器や鏡、水鳥形土製品、堅櫛などがみつかっています。



手あぶり形土器は、何に使われたのか目的がわからないの。なんだろうねえ？



水鳥形土製品



古墳時代前期の遺構

遺構の広がり



おまつりに使われた土器



上空からみた池島・福万寺遺跡周辺・1974撮影

ろ、「^{たまぐしのしょう}玉串庄」と呼ばれる荘園があったことがわかっていますが、この地割は「玉串庄」の開発と関わりがあるのかもしれませんが。

今から1300年くらい前の^{ならじだい}奈良時代には、水田を^{とうざいなんぼく}東西南北に^{せいぜん}整然と区画するようになります。まず、一辺の長さが6町（約654m）の正方形の区画を基準とし（これを、里といいます）、その中をさらに6等分して1町（約109m）の区画を36個に細分したものを「坪」と呼びます。

このような方法で土地を区画したものを「^{じょうりがたちわり}条里型地割」と呼びますが、これは当時の国家がコメを税として集めるために始めたものです。その後、条里型地割は、^{しょうえん}荘園と呼ばれる^{ゆうりょくしゃ}有力者の^{りょうち}領地を^{かんり}管理するためにも使われました。

周辺には、こうした条里型地割がよく残っていますが、それは今から1100年くらい前の平安時代に作られ、今日まで引き継がれたものです。この地割が作られたこ

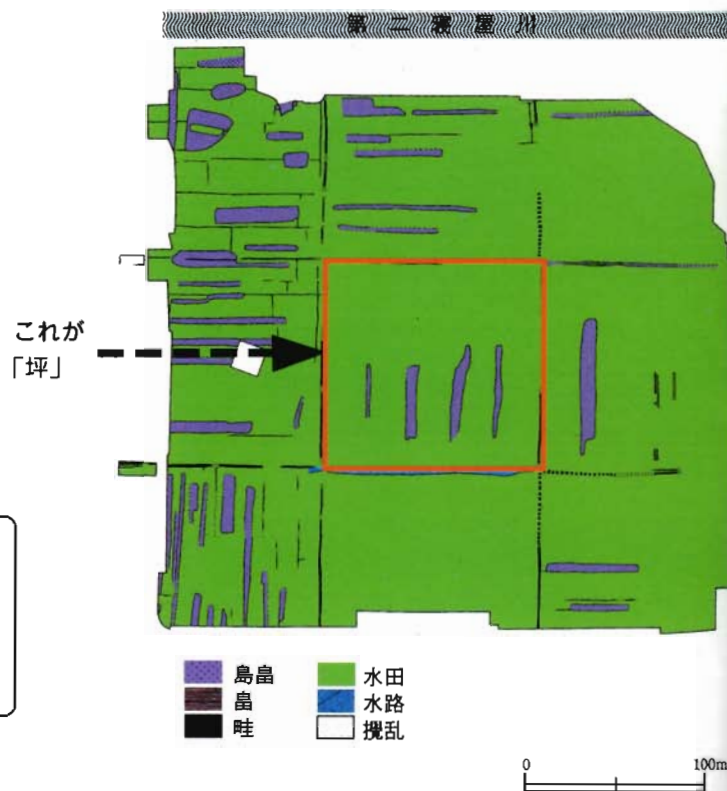
中世の島畠と畠

あぜ・溝のあとや、^{ちそう}地層の中に含まれる^{かふん}花粉の種類を調べることで、この時代の^{とちりよう}土地利用の様子がわかってきました。今から800年くらい前の鎌倉時代になると、水田の中を^{たい}平らにする^{かてい}過程で作られた高まりの上などで、ソバなどが栽培されはじめました。今から600年くらい前の^{むろまち}室町時代には、洪水によって土砂が厚くたまった部分に高まりを作り、畠として利用した『島畠』だけでなく、もともと水田であった部分を畠として利用することもあったようです。

ある時期を境にして、畠でつくった作物の種類がかわるんだって！



細かく調べることによっていろんなことがわかってすごいな！



今から600年くらい前の

開発と地鎮め



「日下宅」とかかれた墨書土器

ふーん



池島・福万寺遺跡からこの銅鈴は4個もでているんだって！

条里型地割の水田あとを^{はつくつちょうさ}発掘調査していると、土器や^{ぜに}銭や銅の鈴（銅鈴）が埋められて見つかることがあります。これは、土地を開発するときのおまつりをしたのだと考えられています。

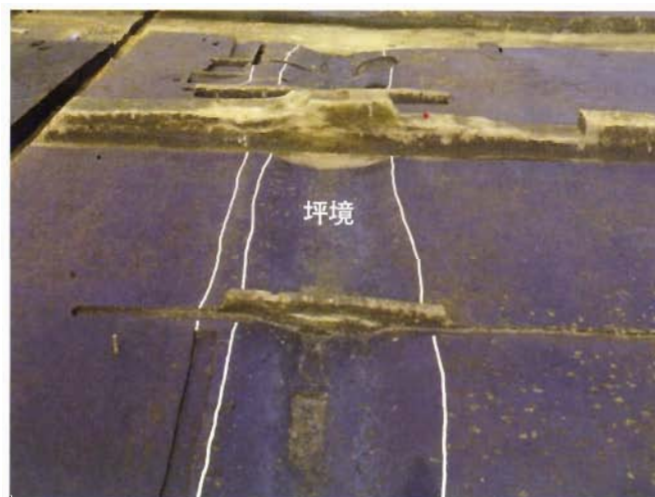
まいのういこう
埋納遺構からでた土器や銅鈴



銅鈴

引き継がれた地割

坪と坪の境を「坪境」と呼びます。坪境は区画の基準となるもので、洪水などで埋まっても、ほぼ同じ位置にもとどおりに作られつづけました。この2枚の写真は同じ坪境を写したのですが、上の写真の時代は溝であったものが、洪水による^{まいぼつ}埋没と水田の^{ふっぎゅう}復旧をくりかえすうちに、下の写真の時代には大きなあぜになったことがわかります。



今から800年くらい前の坪境
(鎌倉時代)



今から600年くらい前の坪境
(室町時代)

四角い区画の中に
畠がたくさんあっ
たんだね！



水田と畠のようす

こうずい さいがいふっきゅう
洪水と災害復旧ふっこう すいでん
復興された水田

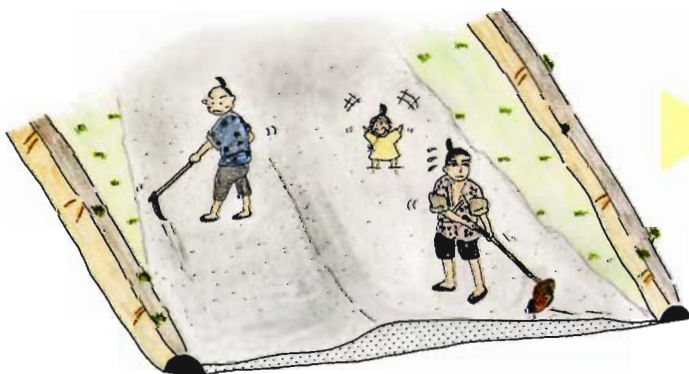
この時代の水田の中には、土砂を盛り上げて作った細長い島のような高まりがたくさんつくられていました。この高まりは为什么呢？ 洪水の砂で水田が埋まると、砂が厚くたまった部分には水を回しにくいので、その砂を1ヶ所に寄せあつめて盛り上げ、低いところに水田を復旧しました。そして、土砂を盛り上げたところは畠に使われました。このような畠は、「島畠」と呼ばれ、島畠がたくさん並んだ水田の様子は「半田」とか「掻揚田」と呼ばれました。

島畠は、鎌倉時代ごろからつくられはじめますが、室町時代以降になると数が増え大きくなっていきます。この頃は洪水がたびたび起こり、そのたびに島畠を大きくしたり、新しく作って水田を復旧していたようです。

「河内木綿」が流行したのもこの頃なんだよ。



畠では綿を栽培していたんだって！

かくだい
島畠の作られ方と拡大

1. 洪水の土砂で水田が埋まってしまいました。しかたがないので土砂を1ヶ所に寄せあつめて盛り上げます。

2. 土砂を盛り上げてできた高い所は畠(島畠)として、低い所は水田として利用します。

穴を掘って「土」を取り、「砂」を埋める



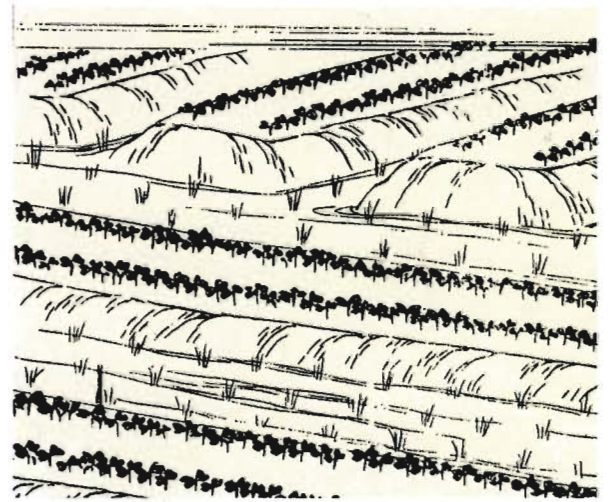
耕作土をとるための穴（島畠の上を掘りこむ）

今から 200 年くらい前に起こった大きな洪水でたまった砂の上を調査すると、そこから掘られた大きな四角い穴がたくさん見つかりました。これらの穴は、洪水の前に島畠のあった場所に掘られています。そして、その穴は洪水の砂でまた埋め戻しています。これは、穴を掘って洪水で埋まる前の地面の土をとり、砂の上に新しい水田を作り直したものと考えられます。穴の中には深さが1mを超えるものもあり、そこから取られた土は、洪水で壊された堤防の修理などにも使われたようです。深く掘った穴の中に洪水の砂を捨てれば、邪魔な砂も減らすことができて一石二鳥というわけです。

洪水の砂を盛り上げて畠を作る



島畠（盛りあがっている部分）

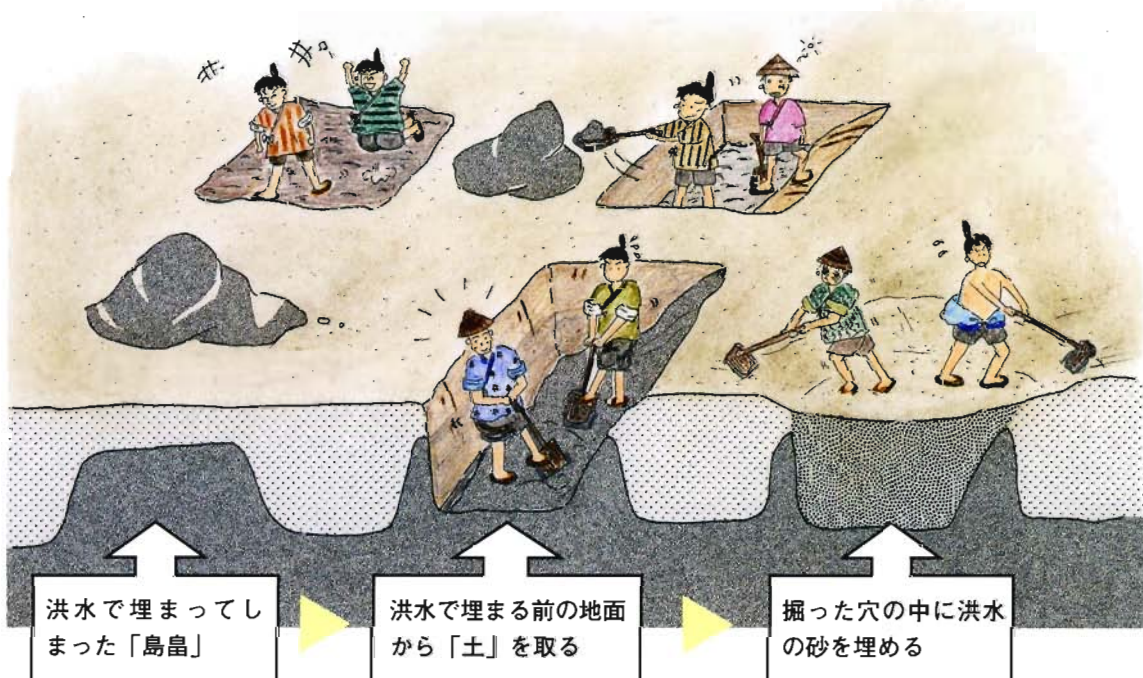


『綿園要務』天保4年(1832)に描かれた島畠



3. また洪水が起きて、せっかく作った水田も島畠も埋まってしまうしました。気を取り直して、もう一度同じ場所に土砂を盛り上げます。

4. 島畠とあぜが前よりもひとまわり大きくなりました。新しい島畠の中に古い島畠がみえます。

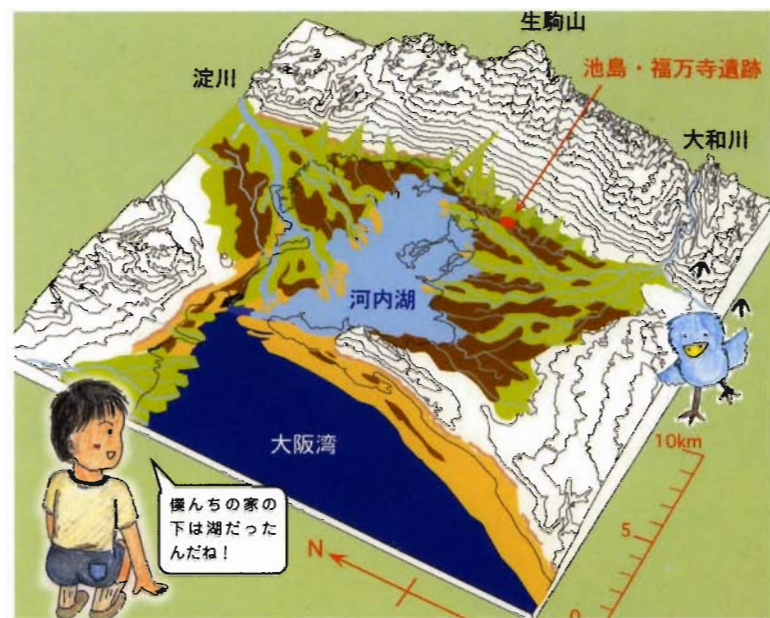


池島・福万寺遺跡のまわりにはどんな遺跡があるのかな？

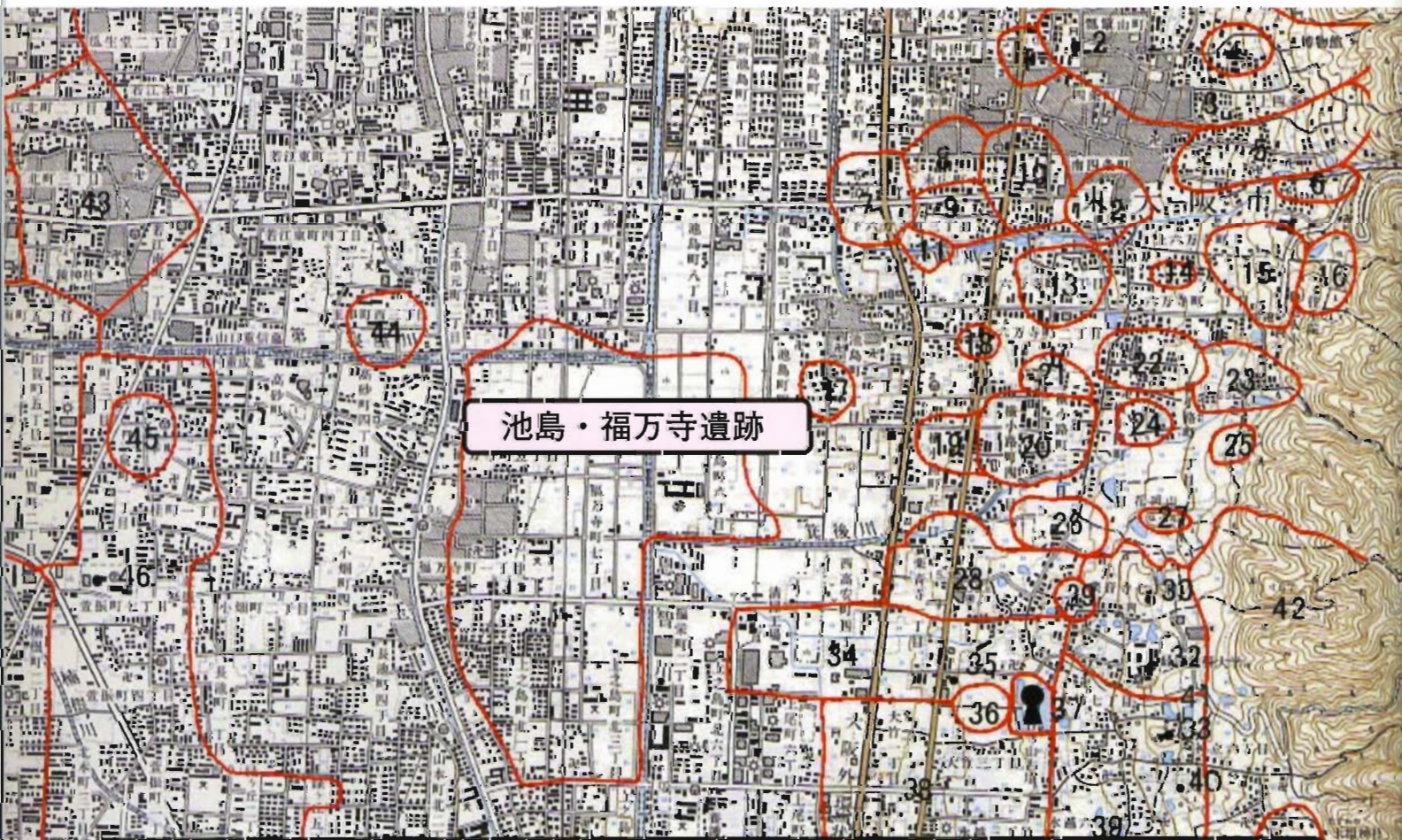
弥生時代の池島・福万寺遺跡の北西には、「河内湖」と呼ばれる湖がひろがっていました。この湖をとりまくようにして瓜生堂遺跡や若江遺跡のような集落跡が見つかっています。また、水田跡も多く見つかり、これらの遺跡の様子から、河内平野にコメ作りが広がっていったことが理解できるのです。

古墳時代になると、生駒山の麓にはたくさんの古墳が作られました。池島・福万寺遺跡の集落で作られた玉などのおまつりの品々は、こうしたお墓に使われたのかもしれません。

まだまだ、たくさんの遺跡がありますが、この地図を見てあなたの家の近くにどんな遺跡があるのか探検してみましょう！



池島・福万寺遺跡と「河内湖」の範囲（『大地のおいたち』より）



- | | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 市尻遺跡 (古墳～中世) | 2. 瓢箪山古墳 (古墳) | 3. 山畑古墳群 (古墳) | 4. 山畑遺跡 (縄文) |
| 5. 花草山古墳群 (古墳) | 6. 五里山古墳群 (古墳) | 7. 北鳥池遺跡 (弥生～古墳) | 8. 五合田遺跡 (古墳) |
| 9. 段上遺跡 (弥生～古墳) | 10. 縄手遺跡 (縄文～古墳) | 11. 下六万寺遺跡 (古墳) | 12. 上六万寺遺跡 (弥生～中世) |
| 13. 船山遺跡 (縄文～中世) | 14. 桜井古墳群 (古墳) | 15. 岩滝山遺跡 (弥生～中世) | 16. 往生院金堂跡 (平安～中世) |
| 17. 池島東遺跡 (古墳) | 18. コモ田遺跡 (古墳) | 19. 西代遺跡 (縄文～古墳) | 20. 馬場川遺跡 (縄文～古墳) |
| 21. 北屋敷遺跡 (古墳～奈良) | 22. 半堂遺跡 (古墳) | 23. 浄土寺谷古墳群 (古墳) | 24. 貝花遺跡 (古墳) |
| 25. 大賀世古墳 (古墳) | 26. 西の口遺跡 (弥生～中世) | 27. 萩山古墳 (古墳) | 28. 楽音寺遺跡 (古墳) |
| 29. 楽音寺跡 (平安) | 30. 西の山古墳 (古墳) | 31. 大光寺山遺跡 (古墳～鎌倉) | 32. 花岡山古墳 (古墳) |
| 33. 向山1号墳 (古墳) | 34. 大竹西遺跡 (弥生～古墳) | 35. 鏡塚古墳 (古墳) | 36. 心合寺跡 (飛鳥) |
| 37. 心合寺山古墳 (古墳) | 38. 太田川遺跡 (弥生～鎌倉) | 39. 大竹遺跡 (弥生～鎌倉) | 40. 愛宕塚古墳 (古墳) |
| 41. 花岡山遺跡 (弥生～鎌倉) | 42. 中谷山古墳 (古墳) | 43. 若江遺跡 (弥生～中世) | 44. 玉串遺跡 (古墳) |
| 45. 西郡寺跡 (奈良) | 46. 萱振1号墳 (古墳) | | |